

One day with a conservatory

“好き”と過ごす 自由なライフスタイル



私はこのガラスの部屋が大好きだ。朝起きてからリビングのカーテンを開ける。そこからコンサバトリーへ入り同じくカーテンを開ける。明るい朝の光を全身に受け、私の1日が始まる。

全方位開放して受ける日差しは気持ちがよくて、太陽へ向かう草花のように体も自然と伸びてしまう。これが日課になっているが、雨の日は陽が当たらないのでちょっと残念。でも雨音が屋根のガラスに反響する音に耳を傾けるのも意外と悪くない。

例えば犬を飼っている人はこのあたりで尻尾を振りながらすり寄ってくるのではないだろうか。季節が冬だったからエアコンをつけてちょっと温かくなってからの登場かもしれない。どちらにしてもまずはご飯の用意が肝心のようだ。

ひと昔、まず朝はコーヒーとタバコと決まっていた。今は紅茶が気に入りになっている。お客様とご縁があって購入することになった、インド直輸入のダージリンティー。タバコを止めから食べ物匂いに敏感になったが紅茶がこんなにも透き通る香りを放つものかと衝撃を受けた。以来、飽きることなく飲み続け、むしろ淹れ方にもこだわるようになり、コンサバトリーを内覧に来て頂いたお客様にもお出ししている。

これがまた好評で嬉しく感じている。

ほんのいつもの朝の一部始終だが、いつも感じるのはコンサバトリーは自由な発想でどのような過ごし方もできるということだ。

ガーデニングが大好きでコンサバトリーの室内で植物を育てたい。まさしくコンサバトリーはイギリスでウインターガーデンの為として、雨や風を遮るだけでなく、植物への最適な環境、そして使用者の居住性を追求しながら発展を遂げてきた背景がある。イギリスの気候風土を考えて、高い気密性・断熱性は必要不可欠で今日でもそれは変わらず受け継がれてきた。

過ごしやすさはそのままに、時代が進みコンサバトリーの価値はより増してきた。私のようにお茶を楽しむ、仕事の打合せの会場に、一時は息子が受験勉強のスペースとして夜に活躍していたこともあった。日々調度いい静かさや明かりの感じが自然と集中できたようだ。長くコンサバトリーを生業としてきているがその時はそんな使い方もあるのかと、驚きと発見であった。今でもお客様のお宅を訪問した時に学生のお子様がいると、ついつい話してしまいましたくなってしまいうネタである。

いつも面白くなってしまふのは、ペットを飼われているお宅でコンサバトリーを取り付けることになる



ガーデニングが最近のトレンド。

tea time



起きてからの1杯が最高。



愛犬はしばしお散歩待ち…。